

自己目標に生かされるよう指導する。

ウ 中間面談で勤務遂行意欲の喚起

・ 自己目標の進捗状況を振り返り成果と今後の課題を明確にする。

・ 面談時の振り返りで学校経営方針の浸透を図る。

エ 次年度の勤務意欲・主体的な取組につながる期末面談での成果の確認

・ 勤務観察記録等を基に、提出された行動規準表の目標達成状況と自己評価を検討し、適切な指導助言を行う。

・ 学校経営方針・具体策への貢献が実感され、教職員が学校における自分自身の存在の意義を確認できるように努める。

オ 教職員との信頼関係の構築と適切な指導助言

・ 明るく活気ある職場環境づくりや、日常的なコミュニケーションにより教職員との信頼関係の構築に努める。

・ 教職員の計画や構想を生かすことにより、勤務意欲の向上ややりがいにつながるように努める。

3 まとめと課題

① 学校経営の方針や努力点を周知し、キャリア段階や職務に応じた自己目標を設定させ、適切な指導助言により、組織の中で

の立場を意識した職務遂行や、学校組織の活性化

② 今後も、公正かつ適正な教職員評価を行うと共に、勤務意欲が喚起できる面談や指導助言を工夫していく必要性。

四 講演会

○ 講師紹介

村上 雅之 副会長

◇ 演題 「震災を生きる 伝え続ける」

◇ 講師 太田 巖 先生

河北新報社編集局長

◇ 講演内容

1 被災地、被災者は今も震災のただ中にある

① 被災者アンケート

② 山積する課題

2 新聞を発行する・ニュースを届けるという意思

① 発行の危機

② 取材現場の状況

3 読者に役立つ情報

4 応援メッセージ

・ 阪神大震災被災者からのエール

5 視点を据えて継続的に特集「避難所いま」「被災者いま」「ふんばる」

6 子どもたちの笑顔

① 自らを、周りを元気に

② 子ども新聞の発行

7 学校と震災

① 避難所、防災拠点として

の学校の機能

② 防災教育の重要性

○ 謝辞

菅野美智子 副会長

○ 閉会の言葉

滝原 一夫 副会長

〰〰〰 析の葉 〰〰〰

とちぎの少人数数学級の新たなステージ

栃木県教育委員会

県教育委員会では、これまで推進してきました「本県独自の少人数数学級」を充実させ、平成二四年度から「栃木の新少人数数学級推進事業」とちまる・いきいき・スマイルプラン」を展開しているところだ。

本事業は、学級集団を小規模化することで、児童生徒一人一人に応じた学習指導や生徒指導を実現し、諸課題の改善・解消を図るとともに、児童生徒の可能性を引き出すことを目的としています。また、集団の持つ力も大切にしつつ、多くの大人の目をおして児童生徒をはぐくみ、学びに向

かう集団を実現するため、複数教員の配置も目的としております。

事業の内容は、大きく二つに分けられます。

一つは、小中学校の少人数数学級を推進する事業「いきいきプロジェクト」です。

本県は、すでに小学校第一・二年、中学校のすべての学年で三五人学級を実施しております。今後は、文部科学省の示した「新たな教職員定数改善計画案」の動向を注視し、本プロジェクトを推進して参りたいと考えています。

もう一つは、必要度の高い小中学校に非常勤講師を

配置する「スマイルプロジェクト」です。今年度は、小学校低学年、特別支援学級を含む指導困難な状況の見られる小中学校に二一〇名を配置しております。スマイルプロジェクトでは、配置可能な人数に限りはありますが、年度の途中で困難な状況が発生した場合でも、市町教育委員会を通じて御相談いただければ、非常勤講師を配置することもできます。

「いきいき」には、少人数数学級推進により一人一人の活躍の場が増え、そこに身に付いた自信をもとに、いきいきと学校生活を送ってほしいという思いが込められています。

「スマイル」には、多くの大人の目で、よりきめ細かな指導を実現することで、児童生徒が充実感をもち、笑顔いっぱいになってほしいという思いが込められています。

県教育委員会では、今後とも、とちぎの子どもたちがいきいきと学び、たくましく成長していけるよう努めて参りますので、皆様のお力添えをお願いいたします。